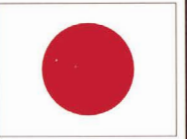




毎月十五日発行 所 社会  
発行 大 宗  
像 像  
〒811-35 福岡県宗像郡玄海町  
電話 0940-62-1311(FX)  
定価 一年送料共 1000円



二月十一日には  
国旗を掲げ  
建国記念日を  
祝いましょう

# ひのえね 丙子の年頭にあたり

## 宗像大社 宮司 養父 守



謹んで新年の御慶びを申し上げます。

謹んで新年の御慶びを申し上げます。年頭にあたり、皇室の弥栄と国家の隆昌、併せて氏子崇敬者皆様方の益々の御繁栄と御健康を心より御祈り申し上げます。

じまるオウム真理教による常軌を逸した一連の凶悪犯罪は、宗教界、教育界にも大きな衝撃を与え、深刻な課題を残しながらの越年となりました。

大東亜戦争の意義がなされては数々な議論がなされていますが、戦争の残虐さ、悲惨さといった影の部分のみが強調され、今なお、反省、謝罪の自虐史観に迎合する風潮が多く見られます。

「日本のおかげでアジアの諸国はすべて独立した。日本というお母さんは難産して母体をそこなつたが、生れた子供はすくすく育つている。今日、東南アジアの諸国民が米英と対等にお話ができるのは一体誰のおかげか。それは身を殺して仁をなした日本とお母さんがあったためである。」(タイ元首相)

このように大東亜戦争の意義を高く評価する見解が東南アジアには根強くあり、日本は、西洋をアジアから追放し、数世紀に亘るその植民地勢力の権威を失墜させることに成功し、人間社会は新しい機軸を築き、世界に広がるべき多民族が独立を達成した。しかし乍ら、大東亜戦争の理が独立より植民地主義、侵略戦争という一面の偏向教育が今なお残っているが、インドのパール判事は「日本の子弟が、ゆがめられた罪悪感を背負って、卑屈、

類に流されていくのを私は平然と見過ごすわけにはいかな」と述べています。先の大戦で国土は焼土と化し、数百万人の尊い人命が失われましたが、拙った犠牲が有史以来未曾有のものであったことは、我が国が遭った苦難が、如何に大きかつた困難に満ちたものであつたかを物語っています。戦争は、絶対に繰り返してはならないことは言うまでもありませんが、当時の厳しい国際状況の中で、祖国日本と郷土、肉親の安泰を念じて戦場に赴き散華された英霊に対する感謝の念を私達は決して忘れてはなりません。

当大社境域には、宗像市郡内、千五百余柱の英霊を奉祀する宗像護国神社が鎮座されており、終戦記念日開近の八月十三日に「大東亜戦争終結五十年追悼式典」を、遺族、来賓の方々約三百五十名参列の下に厳粛に挙行いたしました。戦没者の方々、「生きた」という人間の根源的欲求を犠牲にし、国家社会のために尊い生命を捧げられたため、この最高の行為に対し、後に残った国民は心から感謝しなげればならないと思います。人間社会はお互いの犠牲の上に成立しています。他人は遠慮なく自分の犠牲にするが、自分は他人の犠牲になるのは嫌だという人間が増えれば、人間社会は崩壊し、逆に他人のために自分を犠牲にし社会に奉仕する人が増えれば、社会は明るくなりやすくなります。戦後五十年、我が国は目覚ましい経済発展を遂げ、物質的には生活が豊かになってきましたが、その反面に物欲が限りなく肥大化し、精神的、道徳的に退廃の一途を辿っているように思われます。靖国神社、護国神社で戦没者を祭り慰養することは、その犠牲的精神に感謝し、尊い無償の行為に見習うことであり、決して戦争を美化し、再び軍国化するものではありません。当大社では、これらも手厚く宗像護国神社の祭典を御奉仕していく所存であります。

次に既報のとおり、当大社では、平成の御造営ともいふべき社殿の修復事業を昨年夏より行っており、刃津宮拝殿は、戦国時代末に本殿と共に焼失し、宗像大司馬氏直による本殿再建に運れること二十一年後の天正十八年(一五九〇)に時の筑前領主、小早川隆景により再建されたものです。が、爾来今日迄四百年間に大小二十数回の修理が行われてきましたが、安土桃山時代を代表する建築物として国の重要文化財に指定されており、近年では、昭和十八年に「けしき」の屋根の葺き替えが行われましたが、四十年を経て、ひび割れや剥離が目立っており、全国各地の多くの文化財が被害を受け、その緊急修復のため当社の工事決定が遅れ、漸く昨年八月着手の運びとなりました。工事は、助文化財建造物保存技術協議会の指導監督の下に順調に進み、三月で完了し、十月十七日には、陽光に映える美しいけしきの拝殿で恒例の表千家宗匠による献茶祭が滞りなく執り行われ、また、これに併せて、神門内の神護所も従来の瓦葺きを銅葺きに改め、年内に工事を終えました。女界禪天鳥鎮座の中津宮

本殿は、記録によれば永祿九年(一五六六)宗像氏貞の造営と伝えられ、刃津宮本殿と同様の建築様式を示す流麗な流れ造りの建物で、棟に口材と角材をそれぞれ三本ずつ束ね、二組の勝男木を飾る、全国に例を見ない形の社殿でもあります。刃津宮本殿より以前に造営されたと伝えられていますが、創建時の棟札が現存しないところから、国の重要指定には至っていませんが、福岡県的重要文化財に指定されています。昭和二十八年の屋根葺き替え以来、四十年の歳月の間に、風雨と鳥害のため外皮が傷み、更に調査の結果、内部の柱や板もシロアリの被害を受けていることが判明し、四百年ぶりに初めて解体修理が行われることになりました。工事は、刃津宮拝殿に引続き、文化財建造物保存協会の指導監督の下に行われ、現在、本殿は葦屋根に覆われ、隣接して作業場と事務所が建設されています。一月下旬から解体工事が始まり、同時に綿密な調査が行われ、解体後は損傷部分を補修し、屋根を葺き替え、創建時の姿に復元されますが、完成は平成九年三月の予定となっています。このたびの社殿修復事業につきましては、宗像市郡内の氏子の皆様方を始め、全国各地の崇敬者の方々に御協賛を御願いいたしてありますが、多勢の方々が真心からなる浄財を御奉納頂き、熱誠溢るる御奉賛に深く感謝し厚く御礼申し上げます。皆様方の御忠告の真心を万全に期す所存です。ご今後と御禮儀、御支援を賜りますようお願いいたします。本年は十二支の一巡する子の年ですが、一陽来復、希望に満ちた充実した良い年でありませう。心より御祈り申し上げ、年頭の御挨拶いたしました。

交通安全宗像大社の御神徳をたたえ奉りて 1996

# 謹んで新年の御祝詞を申し上げます

- 福岡トヨタ自動車株式会社**  
取締役社長 金子 宜嗣  
福岡市中央区渡辺通4丁目8番28号 電話代761-3331
- 福岡トヨペット株式会社**  
取締役社長 谷口 敏  
福岡市博多区東光1丁目6番13号 電話代411-1121
- トヨタカローラ福岡株式会社**  
代表取締役社長 畝地 重幸  
福岡市中央区長浜2丁目1番5号 電話代712-7111



- トヨタオート北九州株式会社**  
取締役社長 卜部 典明  
北九州市八幡西区皇后崎町14番6号 電話代642-2111
- トヨタピスタ福岡株式会社**  
代表取締役 喜多村 浩司  
福岡市中央区薬院1丁目5番8号 電話代714-6661
- トヨタカローラ博多株式会社**  
取締役社長 久恒 鑛造  
福岡市博多区豊2丁目3番50号 電話代441-2111

# 平成八年 新春に祈る人々

## Ⅱ正月社頭風景Ⅱ



1996年 1月 1

除夜祭も終り、正月準備も整えられ、しずかに新年を待つ境内には一種独特の厳粛さが漂っている。

平成七年の夕日を送り、大祓式の清めきリヌガが時折吹き荒む寒風に小雪の如く舞いながら飛び散る。

浄暗の中にその白さが一段と美しい、森羅万象すべてが一年を反省し、迎える新しき年への準備に息をひそめているしずけさを感じる中、舞い散る切麻がひときら輝くのもきれない。

午後十時半、神門前の大庭燎に火が入る、ボーンと赤くじむ境内、その中に一番参りの人々が浮き出る、いつしか異道は車のヘッドライトの洪水となり、整理員の導く笛が鳴り響いている。

午前零時、新年最初の太鼓が境内に鳴り響く、合せ神門が大きく左右に開き、神門前からは心字池太鼓橋から駐車場へと続いていた初詣の人波が流れる様に神

門へ神門へと動いて行くいつもの正月風景が始まった。

神前で折る人、拍手の音も高く打ち折る人、授与所で新守札を求める人、福みくじを求める人、数時間前のあしすけさが信じられない、浄暗の空に枯木のごとく枝を広げていた境内の樹木すら、水を得た植物の様に生き生きと輝いてみえる。

午前七時半、うすき雲間より初日が登る、今平成八年の黎明である。人波はさらに多くなった。人々の明るい顔が輝く、新年の挨拶が飛びかう中、破魔矢の鈴が鳴りびびく。

元旦の初日が輝く中、本殿で元旦祭が実行され、平成八年の平安が祈られた。今年の正月は三ヶ日を始め十日頃まで好天が続く、新年以上の参拝者が各神社仏閣を詣でたと四日からの例年仕事を各会社、官庁関係の

間に対しても害をなす動物として憎まれる一方、白ネズミは黒猫のお使い、瑞兆とされてきた。

古事記には、大國主命が火に追われた時、ネズミが大神の命を助けた記事があり、又日本後紀には、八百九年、山城国から白ネズミを献じた事が述べられている。

神道でいう根の堅州国(がたすくに)に住むのがネズミであるという新井白石の説は、根拠のないことではない。根拠のないこと、ネズミを忌言兼として「よめ」「夜のもの」「おふく」「むすめ」等と呼んでいる地方は多い。「よめが君」は俳諧で新年の季節語になっている。

今年はずいぶん、ね。は十二支の一つで第一に位する。方位は北に当たるこのね。が動物の「鼠」にあてられていることは相当地い。ね。は年因んでネズミの話と昭和四十七年の新年に、当社報の新年挨拶を見ると次のように記されている。

鼠は学問上、げつ菌類に入る。上下のあごに各一對の大きな門歯があり、これが一生の間とんとん伸び続ける。この伸び続ける歯を調節するため、木物や鉛管等品物を選ばずバリバリとかじるわけである。

このげつ菌類は、今から七千万年前にアメリカ大陸に現れてから現代に至るまで繁殖し続け、現在ネズミ科だけで二百四属一千七百六十五種があるといわれている。

この鼠は繁殖力がとても強く、年に数回も子供を産む。でも鼠等は一回に二匹近く産む。この子供は五日

十日で又子供を産むようになる。世にいう鼠算はこのような増殖計算法をさして

さして、鼠は人間に対して害をなす動物として憎まれる一方、白ネズミは黒猫のお使い、瑞兆とされてきた。

古事記には、大國主命が火に追われた時、ネズミが大神の命を助けた記事があり、又日本後紀には、八百九年、山城国から白ネズミを献じた事が述べられている。




謹んで新年の御祝詞を申し上げます

平成八年 元旦


- |             |            |           |
|-------------|------------|-----------|
| 宗像大社 社務所    | 代表役員 兼父 守  | 会長 出光 太蔵  |
| 宗像大社 社子会    | 代表役員 兼父 守  | 副会長 倉元 清彦 |
| 宗像大社 中両宮奉賛会 | 代表役員 兼父 守  | 副会長 大森 良信 |
| 宗像大社 責任役員会  | 代表役員 兼父 守  | 副会長 目原 徳夫 |
| 出光 昭介       | 大野 茂       | 新海 伍郎     |
| 布江瀬之助       | 河野 幸人      | 黒石 繁男     |
| 麻生 泰        | 占部 真太郎     | 古屋敷清文     |
| 占部 三吾       | 占部 文男      | 上妻 藤人     |
| 古賀 芳人       | 宗像大社中両宮奉賛会 | 会長 目原 徳夫  |
|             |            | 副会長 宮本登志丸 |
|             |            | 福原 鶴夫     |

- |          |          |           |
|----------|----------|-----------|
| 宗像大社 社務所 | 宮司 兼父 守  | 巫女 狩野 栄子  |
| 権宜 太田 可愛 | 權宜 升谷 勝良 | 松本 園美     |
| 山田 幸雄    | 神島 定     | 岡村 弥生     |
| 大野 宗康    | 石橋 清寿    | 清水梨香子     |
| 堤 弘      | 高向 正秀    | 戸田真紀子     |
| 玉木 正之    | 門司 成人    | 山口 尚子     |
| 渡辺 秀丸    | 杉山 安彦    | 花田亜矢子     |
| 伊藤 佳和    | 宇都宮 勤    | 沖西 あり     |
| 麻生 真由美   | 藤津 幹之    | 事務員 竹本百合子 |
| 石川 順子    | 出仕 佐々木大治 | 管理員 大西 長生 |
| 木田 千佳    | 大坪 肇     | 管理員 吉武 隆則 |
| 入江 累恵    | 松本 昭     | 管理員 花田 清巳 |
| 菅原 昌子    | 学芸員 松本 昭 | 管理員 井上 光生 |
| 副島 順子    | 巫女 入江 累恵 | 管理員 阿部 和代 |
| 岡崎 美恵    | 学芸員 松本 昭 | 管理員 廣橋 康子 |
| 上園 明美    | 学芸員 松本 昭 | 管理員 原 カズ子 |
| 柴田満智子    | 学芸員 松本 昭 | 管理員 古部チヨカ |
| 滝口 美恵    | 学芸員 松本 昭 | 管理員 堺 豊三郎 |
| 警備       | 学芸員 松本 昭 | 管理員 藤井 宜重 |
| 講師       | 学芸員 松本 昭 | 管理員 松崎孫四郎 |
| 大隈 正義    | 学芸員 松本 昭 | 管理員 河津奈津子 |
|          | 学芸員 松本 昭 | 管理員 石井 忠  |
|          | 学芸員 松本 昭 | 管理員 橋 正信  |
|          | 学芸員 松本 昭 | 管理員 大野 展男 |
|          | 学芸員 松本 昭 | 管理員 小方 百枝 |
|          | 学芸員 松本 昭 | 管理員 大隈 正義 |



平成八年 交通安全宗像大社の 御神徳をたたえ奉りて 1996

# 謹んで新年の御祝詞を申し上げます



**日産サニー福岡販売株式会社**

代表取締役社長 片桐 靖 泰

福岡市博多区半道橋1丁目9番10号

電話 (代) 092-411-4132

**日産プリンス福岡販売株式会社**

代表取締役 楠見 記 久

福岡市中央区平尾3丁目5-3


電話 (代) 092-531-9561

**日産ディーゼルの福岡販売株式会社**

代表取締役 小町 登志夫

福岡市多の津1丁目39番4

電話 (代) 092-629-1831



—今年も安全運転を心掛けて下さい—

# 師走のまつり

## 古式祭・鎮火祭齋行



十二月十五日、早朝午前六時、晩間の静けさの中、齋壇大支間から大太鼓が神域に鳴響き、宮司以下祭員、田島区々長、江口区々長、当番代表、地元総代が本殿に参進。恒例の古式祭が斎行された。

この古式祭は八百年余り続けられた祭典であり、今年最後の収穫感謝のお祭りである。神前には「ゲバサモ」と呼ばれる江口の浜に上がる海藻、現在のみかん等の調理された特殊神饌がお供えされた。

薄暗い神域に養父宮司以下神職が着立した後、本年の豊穣と神恩感謝を告げる祝詞を宮司が奏し、続いて、

### 年末年始 特別警戒部隊出陣式

11日署長に滝口凡夫宗像市長

今年で第一回目を迎える年末・年始の防犯と事故防止を呼びかける「宗像地区年末年始特別警戒部隊」出陣式が、11日署長の宗像市長滝口凡夫氏を迎えて寒風吹く11月15日当天大騒動場で行われた。

この特別警戒部隊の結成は、昨年宗像警察署池田署長の呼びかけで市郡内各種団体の協力を得て発足した。昨年は株式会社兼父宮司が一日署長を拝命し、今年も滝口市長にバトンタッチされた。

昨年の師走は寒かった、寒風強く例年にも増して「火の用心」等注意を要した、こうした中、会場の第一駐車場には、



暴走消防関係各部隊  
交通関係各部隊  
防犯関係各部隊  
少年捕獲員各部隊  
市町村交番部隊  
警察官各部隊

以上六部隊からなる各協力会員約400名が参加した。出陣式に先立ち、安全を祈る神事が斎行され、滝口一日署長が玉串を挙げた。

「宗像は治安の良い土地です。年末を迎えて心新たにしよう」と滝口署長の訓示があり、各米賣の挨拶のあと、各部機関が一日署長を先頭に宗像警察署長、宗像大社宮司以下米賣が続いて行なった。

式典のラストアクションに演奏された大村村「みあれ



古式祭の全てが終了した。続いて午前10時より鎮火祭が斎行された。この祭典は「はしずめの祭」と称され、鎮火祭が古式に則り火打石により忌火を起し、ひざごに水を注ぎ、その上に赤い紙を敷き、その上に約五十名が祭典に参列し、敬虔なる祈りを捧げた。

の儀式が行われ、迦具土神の荒びを鎮め、その災を受け止める事無しの神事が行われる。火災の絶無と消防関係者の業務の安全を祈り、県議、市郡内各市町村長、警察署代表者、消防団員、警察関係者、氏子代表者等が参列した。

大鼓の勇壮なパチンパチンに寒さをも忘れる中、ハート・ホワッ(女性白バイ隊)がハンドルさばきも鮮やかな演技を披露した。約一時間の式典は終了、寒風吹きさらす中特別警戒部隊は出陣した。

宗像大社 宮司 兼父 守

宗像大社 養父 守

宗像大社 子孫 出光 太藏

宗像大社 子孫 評議員 各位

宗像大社 子孫 総代 各位

宗像大社 宮司 兼父 守

宗像大社 養父 守

宗像大社 子孫 出光 太藏

宗像大社 子孫 評議員 各位

宗像大社 子孫 総代 各位

交通安全宗像大社の御神徳をたたえ奉りて

1996

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

九州三菱自動車販売株式会社

取締役社長 藤野 三記夫

福岡市中央区薬院三丁目二番三号

電話代) 〇九二一五二一四一四二番

福岡ダイハツ販売株式会社

取締役社長 内山 学

福岡市博多区東比恵四丁目十番二番

電話代) 〇九二一四二一一一三三〇番

福岡日野自動車株式会社

取締役社長 樗木 雅春

福岡市東区箱崎ふ頭二丁目三番三番

電話代) 〇九二一六四一一一七三番

九州三菱ふそう自動車販売株式会社

取締役社長 坂本 良夫

福岡市東区箱崎ふ頭五丁目四番七号

電話代) 〇九二一六四一一八八一番

法人 日本自動車連盟九州本部

本部長 金子 宜嗣

福岡市早良区室見五丁目三番三番

電話代) 〇九二一八四一一七〇〇番

宗像大社歌会  
俳句作品集 三九四

福岡 森 清  
銀杏葉散りて淋しき星一  
つ

福岡 一宮 末子  
今一歩青の信号赤になり

福岡中央 力丸 玄風  
痴茶出素足そのまま暮  
るる

自由ヶ丘 細川 絹子  
風籬やひそやかに鳴る冬の  
夕

若松 高橋 忠實  
餅つきて正月まじからしく  
なり

藤沢 井上 玄洋  
楊柳の浜に居る去年今年



第四一五回 宗像大社歌会詠草

大野 展 男 選  
毎月末日メ 切

武丸 中村さつき  
月々の法話のおれと古い吾  
らみ寺の掃除に着眼してゆ  
く

(評)「着眼してゆく」は  
老人たちの心意気でもあ  
る。ごく自然に詠んでいき  
いきとして好感を呼ぶ。

名古屋 小田 喜一  
戦退きて五年過ぎしか駅に  
来てこの雑踏を懐かしみ立  
つ

(評) こういう感慨は多く  
の人が持つところ、二句の  
具体と、四・五句の叙述が、  
気分をうまく出している処  
を味わって欲しい。

田久 井上 光  
大いなる虹安東灘に立ち鮮  
やかなるまましばし崩れず

赤間ヶ丘 中村 アサ  
冠雪に稜線輝き青空に浮き  
立つ富士を息のみて見る

(評) 一首共に語順を若干  
入れ替えたが、今では珍し  
い叙景の歌。玄東灘に立つ  
虹や、冠雪の富士を詠って  
歌柄が大きく躍動的である。  
他に今月は、薄さん、津江  
さん、高山さんなどいづれ  
も優秀の付けられない歌が  
多くて選んでいて楽しかつ  
た。

河東 薄 かほる  
左腕石の手の平桶むなり辞  
書は机上に広げをくべし

自由ヶ丘 津江富美子  
少女らもただ戦ひし沖繩の  
緑濃き樹々冬の日に照る

吉留 高山 信子  
黒々と泥のつきたる蓮根を  
洗へばいたく甘き匂ひす

朝野 藤井 浩子  
入院の母に付添ふ病院のベッ  
ドは固く眠れずる

赤間ヶ丘 松本 澄子  
目の前に落ちる滝は岩を  
打ちしがきに淡き虹のうま  
るる

大島 屋形トミエ  
店の無き島に嫁ぎ来反物の  
商ひつづけて四十五年経ぬ

田野 森 甲子  
枯色の殿様はつたのろろ  
と母ハウスの溝を這ひゆく

吉留 白木 うめ  
走り来て一塊の黒雲が日の  
照る中に電を降らせり

自由ヶ丘 細川 絹子  
投げし餌に池の水面を盛り  
上げて鯉が群がり餌を争ふ

名古屋 小田 留子  
寒風の路傍に立てる自販機  
ゆ熱きコーヒーころがり出  
る

日の里 大和美由紀  
王葱の苗種まゆくにはかど  
らぬままに日は昏れ街灯と  
もる

大島 越智 治子  
駅裏の枯草むらに冬藪は  
ピンクの色の花秘やかに咲  
く

福岡 中村 勇  
勤められ飲みたる酒に頭の  
痛しこの歳なれば上戸にな  
れず

原町 八波 五月  
立掛けし竹のささらし百舌  
が刺し青く乾べり蛙が二つ

自由ヶ丘 調 貞子  
山映の杉の緑に照り映えて  
色とりどりに木々は紅葉つ  
る

一月一日 元旦祭  
一月二日 新年祭  
一月三日 元始祭  
一月十三日 献米奉告祭  
一月十五日 成人祭  
二月三日 節分祭  
二月十一日 建国祭  
三月十九日 松尾神社祭  
三月二十日 皇霊殿遥拜式  
四月一・二日 春季大祭  
四月二日 宗像護国神社祭  
四月二十九日 昭和祭  
五月二日 沖・中両宮春季大祭  
五月五日 五月祭・浜宮祭  
五月二十七日 沖津宮現地大祭  
七月十五日 祇園祭  
七月三十一日 大祓式並夏越祭  
八月七日 中津宮七夕祭  
八月十五日 護国神社戦没者追悼祭  
九月一日 千灯明  
九月一日 風鎮祭  
九月十三日 皇霊殿遥拜式  
十月一日 海上神幸「みあれ祭」  
十月一・三日 秋季大祭「田島放生会」  
十月三日 宗像護国神社祭  
十月十七日 表千家々々元献茶祭  
十月二十六日 沖・中両宮秋季大祭  
十一月三日 明治祭  
十一月十五日 七五三祭  
十一月二十三日 新嘗祭  
十二月十五日 古式祭並鎮火祭  
十二月十九日 松尾神社祭  
十二月二十三日 天長祭  
十二月三十一日 大祓式並除夜祭

宗像大社一ヶ年祭事表

賀正

玄界灘を望む風光明媚な  
格調高いシーサイド・コース

西日本開発株式会社  
玄海ゴルフクラブ

福岡県宗像郡玄海町  
電話〇九四〇一六二二三三(代)

節分祭のご案内

新春を迎え、皆様方におかれましては益々御清栄の  
ことと存じ上げます。  
扱、当大社恒例の節分祭を左記の如く厳行致しま  
すので御参拝下さいませようご案内申し上げます。

記

一、日時 平成八年二月三日 午前十時  
祭典終了後、豆打式

一、会場 当大社折願殿  
平成八年二月三日

宗像大社社務所

各 位  
一月二十八日・二月十一日迄、厄除祈願祭を左記によ  
り終日執り行います。

記

一、祈願祭典場 於儀式殿  
一、祈願初穂料 一人 五〇〇〇円

一、授与品 福升一箇(福豆入一倉)  
厄除守二体・開運札二体

賀正

松尚開発株式会社  
福岡国際カントリークラブ

池と赤松の三十六ホール

福岡県宗像市大字朝町  
電話〇九四〇一三二三四(代)

1996

新年おめでとうございます

〇玄海国定公園の中心……風光明媚……生魚料理……宗像大社からバス5分……神湊旅館組合

魚屋旅館  
電話〇九四〇一六二二二三番

みなと荘  
電話〇九四〇一六二二三五番

玄海旅館  
電話〇九四〇一六二二〇〇一

高嘉旅館  
電話〇九四〇一六二二二二番

ニユ一千鳥荘  
電話〇九四〇一六二二〇〇六八番

松風荘  
電話〇九四〇一六二二二二番

泉館  
電話〇九四〇一六二二〇三三五番

旅館魚庄  
電話〇九四〇一六二二三三五番

川口屋旅館  
電話〇九四〇一六二二〇四八番

はま荘  
電話〇九四〇一六二二〇五〇〇番

神湊スカイホテル  
電話〇九四〇一六二二三八〇〇番

玄海ロイヤルホテル  
電話〇九四〇一六二二四二二(代)



平成八年

